

神戸の鬼 2月 神戸長田の森「長田神社の鬼」と 稲美町野寺「高蘭寺の鬼」

1. 長田神社 古式追儼式(県指定重要無形民俗文化財)

2月3日 長田神社の節分・追儼式

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。



長田神社は生田神社、湊川神社と共に神戸を代表する神社の一つで、西神戸のランドマーク高取山の南東麓に鎮座する1800年を越える歴史を持つ古社。『日本書紀』によると、201年(神功皇后摂政元年)2月、皇后が新羅より帰還中に武庫の水門(みなと)で神託(「吾が御心長田の国に祀れ」)を受け、創祀されたという。

祭神の事代主神は、「恵美主様」「福の神」ともいわれ、商工業や産業の守護神、日々の生活の開運招福・厄除解除の神として崇敬され、市民からは「長田さん」と親しまれ、初詣や節分には多くの市民でにぎわう。

2月3日の節分祭では、豆まきは行われず、神の使いを務める七匹の鬼が、松明や太刀をふりかざして舞う迫力ある「古式追儼式」が行われる。

この神事は 午後1時過ぎ 法螺貝と太鼓の響きが長田の森に鳴り響き、松明をかかげた鬼が次々に現れ、本殿の周囲を巡る。本殿の前に組まれた舞台上で舞い踊り、神々に代わって全ての災(わざわい)を払い清めてゆく。神社の森が夕闇に包まれる午後7時ごろまで、延々約6時間にも及ぶ炎と鬼の舞神事。







今回始めてこの神事を見ましたが、静かな森の真っ赤な社殿の前で 法螺貝と太鼓が鳴り響き、掲げた松明にゆっくりとしたしぐさで舞い踊る鬼の姿が浮かび出て、時空を越えた素朴な鬼の姿が頭に焼きついて、気持ちがすっとする。後で考えると 単純な繰り返しの舞による6時間も立ちっぱなしでみていたなあ・・・と思うのですが、其の舞姿にひきつけられた一日でした。

- 数十名に及ぶこの神事の奉仕者は神社近在の昔からの氏人(旧長田村)の人に限られ、前日より各々鬼宿(おにのやど)、太刀役宿(たちやくのやど)に籠り、鬼役は身を清めるため何度も井戸水をかぶり練習を重ね、更に、当日早朝須磨の海岸で海中に入り、身も心も清めて神の代理としての鬼役を務めるという。
- また、この神事の起源ははっきりしないが鬼面、太刀等の製作年代や古文書等より、室町時代(約650年程前)には、境内の薬師堂に於ける修正会として、既に現在と同じような形で行なわれていたと考えられ、古い形態を今日に伝える貴重な神事として、鬼面並び行事一式が昭和45年兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されている。
- この神事の中で 鬼がかかげた松明(長田神社の松明は麦藁が束ねられている)の燃え残りを厄除けの朱印入りの白い紙に包んで朝日も出結んだミニ松明を家に持ち帰り、軒先や玄関につるし、この一年の平穏無事を祈るのがこの地域の風習。 この追雛式と平行してこのミニ松明を貰い受ける人達の列が続いていました。また、演目の間には鬼たちが手で顔を触っては その手を参拝者の頭や顔に乗せてゆく。これも この地域の厄除けの風習という。



長田神社の古式追雛式の概要解説は下記 長田神社のホームページにありますので、そちらをご参照ください。

■ 長田神社 古式追雛式 (県指定重要無形民俗文化財)
長田神社 ホームページより <http://nagatajinja.jp/html/>

長田神社のホームページなどインターネットで 「長田神社の追雑式」の予備知識を頭に入れて、長田神社に向かう。赤い大きな鳥居のある長田神社門前の商店街の道の歩道には露天店が立ち並び、お祭りムードいっぱい。境内には多くの人が詰掛けているが、初詣のときをイメージしていましたが、案外少ないですが、社殿の前は人でいっぱい。鬼の登場が今か今かと興味深々で出を待っている。私もそうですが、素人カメラマンが本当に多い。

社殿前には社殿の右端から左端まで広い舞台が設けられ、社殿の右側から踊りながら鬼が登場し、左へ移動しながら踊り、左端から社殿の奥へ消え、また 右側から登場する。



拝殿正面には「泰平の餅（太陽と月、並びに天地を表す）」、その左右に「六十四州の餅 日本の国々を表す）」を各々榊葉（さかきのは）で飾ってぶら下げ、舞台中央には「影の餅（かげのもち、別名鬼の餅、一年十二ヶ月を表す十二個の餅）」を据え、拝殿には「餅花（もちばな、柳の大枝に餅とミカンをつけて花が咲いた様にする。宇宙と星並びに人々を表す）」を飾りつけてある。（長田神社ホームページの解説より）

1時半を過ぎて、法螺貝が境内に響き渡り、「ドーン」「ドーン」とゆっくり太鼓が打ち鳴らされ、社殿の右端の奥からゆっくりとした所作の踊りを踊りながら舞台上に登場してくるといよいよ古式追雑式の始まりである。



長田神社の追雑式 鬼の舞 2012. 2. 3.

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。

- 先ず 一番太郎鬼が右手に麦藁で作った松明を持ち踊りながら三度登場。
- 次に 赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順でそれぞれが松明を持って現われ、五匹揃って鬼の舞。二度登場
- 次に 餅割鬼が右手に松明、左手に斧。尻くじり鬼が腰に槌 右手に松明、左手に大矛を持って踊る
- 次に 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り（太刀渡し）、右手に松明、太刀を左肩に舞い踊る
- 次に 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う。
- 更に 御礼参りと云って先の五匹が現れる。
- 最後 この行事の見せ場である餅割行事 餅割鬼、尻くじり鬼が「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう（災厄解除の祓）といろいろな面白い所作を繰り返りひろげ繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り（新年を祓い清める終る）鬼室に退下して行事は終了。

長田神社の追雑式 鬼の舞 写真アルバム 2012. 2. 3.



一番太郎鬼 赤鬼 姥鬼 呆助鬼 青鬼 餅割鬼、尻くじり鬼

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。

1. 一番太郎鬼が右手に麦藁で作った松明を持ち踊りながら三度登場



2. 赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順でそれぞれが、松明を持って現われ、五匹が揃って鬼の舞。二度登場





3. 餅割鬼が右手に松明、左手に斧。尻くじり鬼が腰に槌 右手に松明、左手に大矛を持って踊る



4. 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り（太刀渡し）、右手に松明、太刀を左肩に舞い踊る





5. 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う



6. 御礼参りと云って先の五匹が現れる



7. この行事の見せ場である餅割行事

餅割鬼、尻くじり鬼が「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう（災厄解除の祓）といろいろな面白い所作を繰りひろげ繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り（新年を祓い清める終る）鬼室に退下して行事は終了。



◎ そのほか



退場した鬼達は退場しても 手を下に下ろさず、変え沿いの人達の方に両手を置いて、立ったままの姿で休む

松明をかがげ、手を上げたままの所作が延々と続く鬼達。すごい疲労だと思うが、鬼達は座らず、また手を下に下ろさない。

多分 これにもわけがあるのだろう。



演目の間に鬼たちが、本殿に組まれた舞台の横に出てきて、つけている鬼面を触ったその手を参拝者の頭や顔に乗せてゆく。これも この地域の厄除けの風習という。

【参考】 長田神社 古式追儺式の概要 (県指定重要無形民俗文化財)

長田神社 ホームページより <http://nagatajinja.jp/html/>

追儺(ついな)とは、通称、「おにやらい」「おにおい」と言い、毎年大晦日に、宮中、社寺、民間で行なわれてきた大祓の年中行事で、現在各家庭で行なわれている豆まき行事のことである。一般に鬼は不吉なもの、種々の不幸・災をもたらすものと嫌われ、この鬼を追い払い、新年の家内安全、無病息災を願うのがこの行事の目的である。元来、大晦日に行なわれたものであるが、大陽暦採用の関係上、春の節分に行かない、翌日の立春を祝い迎える行事となった。

長田神社追儺式の鬼は、前記の鬼とは意味を異にし、神々のお使いとしての鬼であり、神々に代わって全ての災(わざわい)を払い清めて、清々しい良い年を迎えることを祈り踊るのである。これと同じ姿の鬼は、東北地方の「なまはげ」「おしらさま」等に見られる。

長田神社のこの神事の起源は、はっきりしないが鬼面、太刀等の製作年代や古文書等より、室町時代(約650年程前)には、境内の薬師堂に於ける修正会として、既に現況の様な形で行なわれていたと考えられ、古い形態を今日に伝える貴重な神事として、鬼面並び行事一式が昭和45年兵庫県の重要無形民俗文化財に指定された。

神事は、一番太郎鬼(いちばんたろうおに)、赤鬼(あかおに)、青鬼(あおおに)、姥鬼(うばおに)、呆助鬼(ほおすけおに)、大役鬼といわれる餅割鬼(もちわりおに)、尻くじり鬼(しりくじりおに)の七匹の鬼、又太刀役(たちやく)と云う五人の童児(十歳前後)、肝煎り(きもいり)と云う世話人等数十名が奉仕する。この人等は、神社近在の昔からの氏人(旧長田村)の人に限られている。

奉仕者は、前日より各々鬼宿(おにのやど)、太刀役宿(たちやくのやど)に籠り、鬼役は身を清めるため何度も井戸水をかぶり練習を重ね、更に、当日早朝須磨の海岸で海中に入り、身も心も清めて神の代理としての鬼役を務める。

当日、社殿の前には舞台(東西十二間)を設け、拝殿正面に「泰平の餅(たいへいのもち、太陽と月、並びに天地を表わす)」、その左右に「六十四州の餅(ろくじゅうよしゅうのもち、日本の国々を表す)」を各々櫛葉(さかきのは)で飾ってぶら下げ、舞台中央には「影の餅(かげのもち、別名鬼の餅、一年十二ヶ月を表わす十二個の餅)」を据え、拝殿には「餅花(もちばな、柳の大枝に餅とミカンをつけて花が咲いた様にする。宇宙と星並びに人々を表わす)」を飾りつける。

行事は、午後一時の節分祭に始まり、鬼、太刀役、肝煎りの人々は、鬼の宿より威儀を正して参進(練り込み・ねりこみと云う)し、祭典に参列の後、鬼面を始め諸道具並び忌火を受け取り、社殿裏にある鬼室(おにむろ)で鬼の仕度(装束は麻布の上下一体の特殊な衣裳でカヤと呼ばれる)をすると共に、忌火により舞台東西に篝火がたかれる。

鬼の舞 午後二時、太鼓、ほら貝の音に合わせて神事 鬼の舞が始まる。

先ず 一番太郎鬼が右手に麦藁(むぎわら)で作った松明(たいまつ)を持ち踊りながら三度登場。

次に 各々松明を持った赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順で現われ五匹が揃っての演舞を二度行なう。

次に 餅割鬼が右手に松明、左手に斧、尻くじり鬼が腰に槌右手に松明、左手に大矛を持って踊る。

次に 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り(太刀渡しーたちわたしー)、右手に松明、太刀を左肩に演舞、

次に 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う。

更に 御礼参り(おれいまいり)と云って先の五匹が現れる。

愈々最後 この行事の最高調の見せ場である餅割行事

餅割鬼、尻くじり鬼の二匹により「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう(災厄解除の祓を意味する)と色々な面白い所作を繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り(新年を祓い清める終る)鬼室に退下して行事は終了。

大役の餅割鬼奉仕者は神事の主役。各鬼役を奉仕して始めて務めることが許され、少なくとも七回以上の奉仕となる。

この行事は、七匹の鬼が神々のお使いとして、松明の炎で種々の災を焼きつくし、太刀の刃で寄り来る凶事を切り捨て、天地を祓い国土を清め、一年間の人々の無病息災、家内安全を祈り願って、一陽来復の立春が再び巡り来ることを喜び祝う願う予祝の行事である。

参拝者は、松明の灰をかぶることにより祓を受け、松明の燃え残りを家の入口に吊して除災招福を願い、又餅花を食べて無病息災、家内安全を願って、この年の平穩を祈るのが古来よりの風習である。



松明



厄除餅



餅花



六十四州の餅



十二ヶ月の餅



一番太郎鬼



赤鬼



姥鬼



呆助鬼



青鬼



餅割鬼、



尻くじり鬼

長田神社 ホームページより
<http://nagatajinja.jp/html/>